

## 看護実践能力に繋がるリンパ浮腫ケア演習の意義—成人看護学領域の検討—第2報

新潟医療福祉大学看護学科・近藤浩子  
大武久美子

### 【背景】

A大学では、新カリキュラムのもと平成24年度から4年次を対象に臨地実習である「統合実習」と、学内演習と位置づけた「看護実践論」が実施された。成人看護学領域では、昨年と同様に臨床におけるがん看護の知識・技術であるリンパ浮腫ケアに着目した。平成24年度の調査結果では、将来を見据えた看護実践を意識づけられていたが、一方で、複合理学療法の認識が十分ではなかったことが明らかになった。今回は、リンパ浮腫を持つ患者理解を深めるために、技術演習と共に生活指導に向けたパンフレット作成を取り入れ実施した。昨年に引き続き、今回の調査は、質問紙調査にて看護実践能力に繋がるリンパ浮腫ケアの意義を明らかにすることを目的として実施した。

### 【方法】

1. 対象：リンパ浮腫ケア演習を選択した看護大学4年次生14名。2. 調査期間：2013年10月18・25日。3. 研究方法：1) データ収集方法：演習終了後、質問紙調査を実施した。調査は、(1) 参加動機を複数回答する (2) 演習後の学び (3) パンフレット作成内容の理解ができた、(2) (3)は「5. 大変そう思う 4. 概ねそう思う 3. そう思う 2. あまり思わない 1. そう思わない」のリッカート5段階評定とする (4) 感想・意見を自由記述とする、との内容で行った。分析方法は、単純集計とした。(3)は、自由記述されたものを抽象化し、類似した意味内容をカテゴリー化した。2) 倫理的配慮：学生には、研究の趣旨を文書と口頭で説明し、同意書の提出を得て調査を実施した。回答は自由意思であり成績評価とは関係がない旨を説明し承諾を得た。記入者が特定されないように、質問紙は無記名とした。

### 【結果】

対象者14名のうち100%の回答を得た。参加動機は、「がん看護に興味があったから」9名(64%)、「リンパドレナージを学びたかった」5名(36%)、「以前からリンパ浮腫に興味があった」3名(2%)、「授業を受けリンパ浮腫ケアに興味があったから」1名(1%)、「実習でリンパ浮腫患者を受け持ったから」0名(0%)であった。演習後の学びは、「5. 大変そう思う」を示す項目は、「複合理学療法の基本的手技を体験できた」6名(43%)であった。「4. 概ねそう思う」が半数以上を示す項目は、「リンパ浮腫について理解できた」13名(93%)、「複合理学療法の基本的手技を理解できた」9名(64%)、「リンパ浮腫を持つ患者の実際を理解できた」8名

(58%)、「複合理学療法の基本的手技を体験できた」8名(57%)、「複合理学療法を将来学んでみたいと思った」7名(50%)、「1. そう思わない」は無回答であった。(3)の結果は、5段階評定において4, 5を示す項目は、「リンパの流れとリンパ浮腫の原因を患者に理解してもらおう」12名(86%)、「日常生活における注意点を具体的に助言する」12名(85%)、「患者の気持ちを理解し支えていく」11名(79%)、「リンパ浮腫の徴候に気づくための皮膚の観察をする」8名(57%)であった。自由記述の結果は、【圧迫療法の理解】【リンパ浮腫を持つ患者の理解】【将来の看護実践の志】の3つのカテゴリーが抽出された。パンフレット作成に関連する記述は、「リフレクションでは、患者になった気持ちでパンフレットをみて意見を述べる事ができた」「作成してみると、患者さんの気持ちになってみる事の大切を学ぶ事ができた」「もし(患者)に出会ったらその人に合った指導を行い、寄り添った看護を行いたい」「なるべく生活に支障が出ないような指導案が作れるとよい」となった。

### 【考察】

参加学生は、がん看護に興味関心を示していたが、実習ではリンパ浮腫を持つ患者の看護経験が無いことが明らかになった。様々な病期にあるがん患者の実際を理解していくためには、学生の臨地実習のがん患者に対する関わりは限界がある。そのような状況の中で、学生個々における身近な状況が、がん看護の興味関心へと影響していると推測する。このような学生の学習姿勢は、主体的な将来のがん看護への実践に向けた学習の機会となっている。圧迫療法の体験は、昨年同様に、複合理学療法と患者理解への効果があるといえる。加えて、新たな取り組みであったパンフレット作成は、圧迫療法の学びが効果的に影響し、患者への共感性を高めることができたと考える。また、リンパ浮腫を持つ患者の状況の違いを推測し、個別支援の重要性に気付くことができたといえる。今回の演習は、複合理学療法の理解を踏まえ、リンパ浮腫を持つ患者の理解に繋がり意義のあるものであるといえる。リンパ浮腫ケアにおいては、終末期から慢性期までの患者を対象にする。がんリハビリテーション看護における患者理解を深める必要性が示唆された。

### 【結論】

1. 昨年度と同様に、看護実践に向けた知識・技術修得と、患者理解を深めていくことの重要性を認識し、将来の看護実践への志を高めることができた。
2. 圧迫療法とパンフレット作成は、リンパ浮腫を持つ患者理解に効果的に影響し、個別性のある看護実践の必要性を理解できた。
3. 様々な病期のリンパ浮腫のある患者理解を深められる臨地実習を含めた授業内容の工夫の必要性が示された。